

日本の自然と動物

THE NATIONAL DOMAIN

— Birds and Animals in Japan —

企画 外務省

カラー 27分

英・仏・独・西・葡・伊・露

韓 アラ インド ベル ヒン
ビ ア ネシア シア ディ タイ 語版

■ 内 容

この映画は、はじめに日本人と野生動物のかかわりあいを描いている。狩猟時代のあと、稲作が全国にひろがり、やがて仏教が社会の底辺にまでひろまって殺生を禁じると、日本人と野生動物の親しいかかわりあいは古い民話の中だけになってしまう。

仏教が殺生禁止のなかに野鳥と魚を加えなかったのは、それらが豊富過ぎたからかも知れない。国土の狭小な島国で野生の獣が少いのにくらべて、野鳥は実に多い。地理的な位置から、春は南方から、冬は北方からの渡鳥が多く、日本の野鳥の7割は渡鳥だといわれている。

映画は現代に舞台を移して、春、夏、秋、冬の季節を追って、さまざまな野生鳥獣の生態を描いている。

一番印象に残るのは、地球上最北限のサルといわれるニホンザルの生態だろう。

また、優美な丹頂ツルをふくめて、野鳥の豊富さ、冬の渡鳥の壮観におどろくに違いない。

さらにこの映画は、工業化に干渉を奪われている渡鳥の姿や、現代の自然保護、野生鳥獣の保護にもふれている。

■ 製作スタッフ

製作・演出・撮影 村山和雄

脚本 村山英治

音楽 玉木宏樹

解説 グレアム・ウェブスター

株式会社 桜映画社

東京都新宿区西新宿1-22-1 〒160 電話 03 (342) 5768